



若者へのメッセージ 45

映画字幕翻訳者

戸田 奈津子

【第二回】20年かけ 映画の世界へ

小学3年生の時に、外国映画を初めて観た私は、映画の魅力に一気に取り憑かれた。大学卒業後、20年の月日と勉強を重ねて念願の映画の仕事にたどり着いた。好きなことを軸に「自分で道を選ぶ」ことはそんなに簡単ではないが、単純で迷いのない生き方でもある。

映画と出会い、取り憑かれる

人は誰にも「楽しいこと」「好きなもの」があり、たいていは子どものころ、それに出会うものです。

私の場合は「読書」であり、やがて「映画」がそれに加わりました。その興味の根底にあるのは、物語を見聞きし、想像力（イマジネーション）を働かせて、未知の世界に自分をトランスポートする（連れていく）ことの楽しさです。

私は太平洋戦争の暗雲が日本を覆い始めたこ

ろに生まれたので、本はありましたが、敵国の外国映画は禁止され、映画には無縁でした。初めて映画を観て、言葉にならないほどのカルチャー・ショックを受けたのは、戦後、外国映画が解禁されて、誰もが映画を楽しむようになった時です。私は小学3年生でした。

戦争直後、私の住んでいた東京は大部分が焼け野原。食べ物はなく、娯楽もなく、胃も頭の中も飢餓状態でした。そこに洋画がやってきたのです。白いスクリーンに映し出されたのは、見たこともない美しく、豊かな世界でした。こ



戸田 奈津子（とだ・なつこ）

東京都出身。津田塾大学英文科卒。好きな映画と英語を生かせる職業、字幕づくりを志すが門は狭く、短期間のOL生活や、フリーの翻訳種々をしながらチャンス等待つ。1970年によくフランス映画の『野性の少年』『小さな約束』などの字幕を担当。

さらに10年近い下積みを経て、80年の話題作『地獄の黙示録』で、本格的なプロとなり、以来、1500本以上の作品を手がけている。来目する映画人の通訳も依頼され、長年の友人も多い。

〈字幕翻訳を手がけた主な作品〉
『E.T.』『タイタニック』『ラストサムライ』『バイレーツ・オブ・カリビアン』『シンドラーのリスト』『ミッション・インポッシブル』『トップガン マーヴェリック』

〈写真は亀井重郎撮影〉

んなすばらしい場所が同じ地球上にあるのか……
まるで別の天体を見るようでした。灰色の戦争
時代を過ごした女の子が、一気に映画の魅力に
取り憑かれたのは不思議ではありません。その
力はあまりにも大きく、それから脱することな
く、私は80余年の人生を映画とともに暮らすこ
とになりました。子どものころに出会った「好
きなもの」が私の一生を決めたのです。

生き方を「自分で」選ぶ

人生をスタートする時期にある若い方々が将
来、どういう進路を選ぶべきか。思い悩むのは
当然です。今の世の中はあまりにも選択肢が多
く、思い悩むうちにも貴重な時間は過ぎ去って
ゆく。時々、そういう悩みを打ち明けられると、
私は自分のことを思い「好きなことを軸に進む
道を考えたら？」と助言します。

返ってくる答えで驚かされるのは「自分は何
が好きか分からない」と言うものです。自分で
自分の好きなものが分からない？ そんなこと
があるでしょうか？ 毎日の暮らしの中で、
「楽しい」と思うもの。それがあなたの「好き」
なこと、絶対に飽きることがないものなので
す。好きなものがない子どもはいません。自分
の子ども時代を思い起こせば、必ず思い当たる
ものがあるはずです。

残念なことに、日本では学校に入ると全てが
「右へならえ」的な教育となり、せっかく生来
持っていた「好きなこと＝才能」の芽を摘みと
られてしまう。これほど残念で、もったいない
ことはありません。

たまたま最近、私が担当した映画にステイー
ブン・スピルバーグが幼年時代の自分を描いた
『ザ・フェイブルマンズ』という作品がありま
す。『E.T.』『シンドラーのリスト』『ジュラ
シック・パーク』などなど、数多くのヒット作
品を飛ばしてきた、あのスピルバーグです。

『ザ・フェイブルマンズ』を観ると、彼は5、
6歳のころに映画の面白さに目覚め、以来、そ
の道一筋。学校の成績は芳しくなく、運動神
経はゼロ。学校ではユタヤ系だということ日々、
いじめに遭う。しかしどんな障害があろうとも
映画への思いは揺るがず、その道を極めて、今
日のスピルバーグがあるのだということを知ら
しめてくれます。

彼ほどの才能はなく、彼ほどの成功は望まな
いとしても、「好きなもの」に生きるの、そ
んなに難しいことでしょうか。「これが好きだ
から、これが楽しいから」と自分で見極めて、
それを軸にすれば進路に迷うことはないはずで
す。重要なのは、そういう生き方を自分で選び、
周囲の人々の動向に引きずられないこと。「右

へならえ」精神は日本人の悪い癖の一つです。

念願叶い映画翻訳の道へ

私自身のことには話を戻せば「映画が好きで、
そのお陰で英語も一応勉強し、字幕翻訳をした
い」という夢を抱きました。でも、もちろんそ
れが簡単に実現したわけではありません。この
仕事は非常に特殊で、業界も小さいので、夢が
叶うまでに大学を卒業してから20年もかかり、
私は40歳の声を聞いて、初めて念願の仕事がで
きるようになったのです。

でも（スピルバーグのように？）、私も途中
で夢を捨てることはなく、念願叶って手にした
字幕の仕事は思った通りに楽しく、やりがいの
あるものでした。だからといって私は「夢を抱
けば必ず叶う」という甘い話をしているのでは
ありません。「何かに懸ける」ということは成
功率五分五分。叶わない確率は半分あり、最初
からその覚悟を自分にさせておくことが必要で
す。これはとても大切なことです。

いつの時代も、素晴らしいことを成し遂げた
人々——例えば古くはモーツァルト、身近な例
では大谷翔平選手——彼らはみな「自分が好き
なこと」に生きた人たちです。ある見方をすれ
ば、とても単純で迷いのない生き方です。それっ
て、大きな参考になりませんか？